

平成22年度一般会計決算の概要(ポイント)

決算の全体像

- ◇歳入は、4,842億円。(対前年度比 △ 187億円)
- ◇歳出は、4,746億円。(対前年度比 △ 231億円)
- ◇国の経済危機対策等による補正予算を活用した平成21年度と比べ、歳入歳出とも減少したが、「経済活性化」と「くらしの向上」に向け、諸施策を積極的に推進。
- ◇臨時財政対策債を含めた実質的な地方交付税などの増加により、収支は前年度に比べ増加。

$$\left(\begin{array}{r} \text{歳入} \\ 4,842\text{億円} \end{array} - \begin{array}{r} \text{歳出} \\ 4,746\text{億円} \end{array} - \begin{array}{r} \text{翌年度へ繰り越した事業に必要な財源} \\ 43\text{億円} \end{array} = 53\text{億円} \right)$$

歳入の状況

- ◇県税、地方交付税(その振替である臨時財政対策債を含む)等の主要な一般財源は、
⑲ 3,196億円から ⑳ 3,460億円と264億円の増加。

歳出の状況

- ◇人件費は、引き続き職員定数の削減などに取り組んだが、22年度は退職手当が増加したため、全体では21年度と同程度(⑲ 1,612億円 → ⑳ 1,612億円)。
- ◇公共事業などの普通建設事業費は、⑲ 785億円から ⑳ 705億円に減少(△80億円)。
- ◇補助費は、社会保障関係経費の増加のほか、21年度の国補正予算等を活用して造成又は積み増しを行った各種基金を活用したことなどにより ⑲ 1,021億円から ⑳ 1,047億円に増加(+26億円)。
- ◇公債費は、繰上償還を行ったことなどにより ⑲ 720億円から ⑳ 778億円に増加(+58億円)。

収支の状況

- ◇ 臨時財政対策債を含めた実質的な地方交付税などの増加により、収支は前年度に比べ増加。

実質収支 52億80百万円(㉑ 22億50百万円 +30億30百万円)

- ◇ 実質収支については、今後の財政負担に備え、基金への積立てを補正予算案に計上する予定。(23年12月補正(予定))

<参考> 県債残高 ㉒年度末 10,367億円 (㉑年度末 10,134億円 +233億円)
うち交付税措置がなく県税等で償還する額
4,390億円 42.3%(△190億円 △4.2%)

財政調整基金及び県債管理基金の残高
㉒年度末 448億円 (㉑年度末 400億円 + 48億円)

財政状況の指標

- ◇ 一般会計のほか特別会計等の決算額を含め、財政状況の指標を算定。

- ◇ 本県の指標はいずれも基準をクリア。

<資金繰りの状況を表す指標>

指標の種類	H22本県数値	H21本県数値	備考
公営企業等を除く会計の赤字の比率(実質赤字比率)	「－」 (△1.76%)	「－」 (△0.82%)	<3.75%>
全ての会計の赤字の比率(連結実質赤字比率)	「－」 (△7.59%)	「－」 (△7.02%)	<8.75%>
公債費の比重を示す比率(実質公債費比率)	11.5%	11.7%	<25%>

<負債の状況を表す指標>

指標の種類	H22本県数値	H21本県数値	備考
県債残高だけでなく公営企業会計や公社・3セクの負担も含めた、一般会計が将来負担すべき負債の比率(将来負担比率)	215.8%	237.1%	<400%>

※表中、備考欄の数値は、法律により財政健全化計画等の策定が義務付けられる基準